

コロナ禍で注目 体育で「テニピン」

身体接触が少なく

新型コロナウイルスの感染防止策として体育の授業内容が制限される中、テニスをアレンジした「テニピン」が静かな注目を浴びている。身体接触の心配が少ない上、技術的にも小学生から楽しめ、用具も気軽にそろえられるからだ。6月下旬、活動に取り組む学校を訪ねた。

「何回連続でラリーがで
きるか、やってみよう」
策として、ラケットを持た
ない方の手には手袋を着け
てプレーした。ある女子児
童は「手でコントロールで
きるのでテニスより簡単に
できる」と笑う。

ラリーでウォーミングア
ップを終えるとゲームが始
まる。見た目はテニスだが、
論が17年前に開発した。2
利き手にあるのは段ボール
017（平成29）年度に改
訂された小学校学習指導要
領の解説体育編には、ゲー
ム・ボール運動の「ネット
に打つ。この日は感染症対
型」としてテニスが例示さ



テニピンをプレーする子どもたち＝6月25日、東京学芸大学附属小金井小

テニスをアレンジ 小学生から楽しめる

しかし、用具をそろえる
のにお金がかかり、ラリー
を続けられるようになるた
めには技術が必要だった。
ボールに触れられる子とそ
うでない子の差が付きやす
かったという。

それに対しテニピンで
は、ネットはキッズテニス
用のものを使用するが、コ
ーン標識とバーでも代用が
可能。必要なのはスポンジ
ボールくらいだという。

ルール面では、できるだ
け多くの子どもがボールを
打てるよう、4打目までは
ラリーで5打目からがポイ
ントになる。「ボールを打
つための体の使い方や戦術
などを学べてテニスの入門
競技にもなる」と今井教諭。
現在、日本テニス協会の協
力を受け、普及活動も行っ
ている。

小学校でも実施しやすい
「ネット型」のゲームとし
て関心を集める一方、今年
のコロナ禍対策を進める上
で、身体接触が少なく用具
の共用も不要な点が注目さ
れた。ゲーム・ボール運動
の実施を延期する学校が相
次ぐ中、今井教諭は「安全
性の高いテニピンに組み
込んでほしい」と話す。